

回数	開催日	概要
第1回	2020年 3月13日(金)	<p>初回のテーマとして、「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」を検討するにあたり、2040年を見据えて今後新たに取り入れていくべきまちづくりの視点など、論点を整理しました。</p> <p>議論を通して、年齢構成が偏った住宅地を持続可能な魅力ある「まち」に変えていくこと、暮らしに関わる新技術や次世代の価値観による暮らしを謳歌するために都市として備えるべきこと、公園の多機能化・多世代化や管理の効率化といったことなど多岐に渡る論点を確認しました。</p> <p>また、今後の進め方として、市域全体を4つのエリアに分類し、各エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論していくことを確認しました。</p>
第2回	2020年 5月21日(木)	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する1回目として、駅前拠点周辺や大規模団地などでの暮らしをイメージして、学識の先生方から話題提供を頂きました。</p> <p>「ターミナル駅・モノレール新駅周辺のくらしをイメージした基盤整備の方向性」</p> <p>「エコディストリクト(既成市街地において参加型でエコなまちをつくっていくコンセプトと枠組み)/駅そば生活圏」</p> <p>「拠点地域・利便性が高い地域での「ビジョン」「プラン」の重要性と課題」</p> <p>「みどりとオープンスペースの戦略」</p> <p>「イギリスの健康都市づくりについて」</p> <p>「拠点整備のあり方について」など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、</p> <p>「道路的な空間の役割が20年後には大きく変わってきて、使い方や断面構成が変わるのではないか」</p> <p>「緑地やオープンスペースについても、使い方が日常化してくるのではないか」</p> <p>「空間と目的の関係が、出歩きたくなるまちを考えるうえで大事になるのではないか」</p> <p>「さらに20年間で働き方の変化は加速するのではないか」</p> <p>「都市農地のあり方と「食」のあり方を併せて考えると良いのではないか」</p> <p>などのご提案を頂きました。</p>
第3回	2020年 7月10日(金)	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する2回目として、ゆとりある郊外住宅地などでの暮らしをイメージして、委員の方々から話題提供を頂きました。</p> <p>「ウィズコロナ・アフターコロナにおける新しい郊外像」</p> <p>「町田市の旗竿敷地から見る住環境」</p>

		<p>「都市防災分野からの話題提供」</p> <p>「住宅地と生業の場の関係再構築の要件」</p> <p>「地域コミュニティの活性化に向けた学校法人との連携協力協定について」</p> <p>「郊外住宅地の暮らしを支える移動型サービスとコミュニティ・プレイス」</p> <p>「これからの郊外像と移動の体系」 など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、</p> <p>「基本構想(案)でまちづくりの方向性に示されている「ちょっといい環境」「ちょうどいい暮らし」という言葉は、都市づくり分野でも具体化していくことが必要」</p> <p>「テレワークなどコロナで急速に生活様式が変化しているが、今後どうなっていくか注視して暮らしのイメージを設定すべき」</p> <p>「職住融合など住宅が多機能化すると、自宅に閉じこもりがちな印象を受けるが、家の中だけでなくまちの暮らしを豊かにして利用していくという考え方をすべき」</p> <p>「人と会ってコミュニケーションが出来るというのが人間社会の基本であり、その手段として交通施策が大切」</p> <p>「近未来的なトリップの減少やコロナ禍による公共交通の維持困難をどのように整理していくかが課題」</p> <p>などのご提案を頂きました。</p>
<p>第4回</p>	<p>2020年 9月18日(金)</p>	<p>エリア毎に2040年の「暮らし」のイメージを議論する3回目として、市街化調整区域及びその周辺を中心としたみどり豊かな地域などでの暮らしをイメージして、委員の方々から話題提供を頂きました。</p> <p>「町田市民の生活を豊かにする緑の活用案」</p> <p>「藤巻さと構想と地域まちづくり(参考事例)」</p> <p>「自然環境の多主体による共同利活用のハードル」</p> <p>「近郊里山の保全と利用」</p> <p>など、多岐にわたる示唆、その後の議論では、</p> <p>「二拠点居住のような新しいライフスタイルの里山関係人口増加という視点もあると良い」</p> <p>「町田市街地に住んでいる人がここにアプローチしようとする時、自家用車やモノレールも手段としてあるが、小さな交通でのアプローチも考えた方がいい」</p> <p>「地権者やそこに住んでいる人のメリットも考えて計画を作る必要がある」</p> <p>「何かを実現しようと思えば、何らかの開発行為は伴ってくるので、規制の柔軟な運用が求められる」</p> <p>「里山部は貴重な資源であり、学校や地域の連携に使えることが理</p>

		<p>想ではないか」 などのご提案を頂きました。 また、5回委員会の間中まとめに向けて、市全体の暮らしのイメージや資料のまとめ方についても ご意見を頂きました。</p>
第5回	2020年 10月9日(金)	<p>第1回～第4回までの議論を振り返り、不足する点などを補って、中間とりまとめとして整理を行いました。2040年の暮らしのイメージについては、 「エリア類型を4つに分けているが、相互に繋がっていて行ったり来たりできるエリア間の重なりを含めて表現できると良い」 「町田市は鶴見川や境川の源流を抱えており、水の持つ価値は大きい ため、”水”というキーワードを 入れた方がいい」 「市街化されていない丘陵地やその周辺エリアでの暮らしについて、地権者や農業者から見た暮らし 方の記述もあった方が良い」 などのご意見を頂きました。 また、今後の検討の方向性については、 「全体ビジョン編では、将来の都市構造の変化を見せながら各分野が融合した統合的な方針を書き、個別パート編では、それを実現するために各法律に従ってできることを具体的に書いていくという整理の仕方が良いのではないか」 「地区別パート編については、市民の主体性をもとにやっていくことは良いが、行政が活動を支援していくことも必要では無いか。」 などのご意見を頂きました。 また、報告事項として東京都が策定する「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(原案)」の概要および、同時策定中の市の計画(基本計画、福祉分野、環境分野)との関係性について事務局より報告しました。</p>
第6回	2021年 1月26日(火)	<p>これまでの検討から導いた、将来都市像「暮らしとまちのビジョン」の実現に向けた「都市構造」や「都市づくりの基本方針」について議論頂きました。 将来都市構造を「まちのづくり(1)拠点と軸」「まちのづくり(2)日々の暮らしを支える場」に整理した事務局案について、 「まちの拠点と軸は、都市単独の意思ではなく広域的な位置づけに基づいているため、前提とすべき大きな都市の骨格と捉えても良いのではないか」 「都市的な賑わいも欲しいが、生活のしやすさが前面に出た拠点が23区とは違う町田の特徴になりうるので、生活の視点をメインに都市構造を考えてもいいのではないか。」 「暮らしのかなめとしているロードサイドの集積について、自動車中心の街に見えないように表現を工夫すべき」 などのご意見をいただきました。</p>

		<p>都市づくりの基本方針を「7つのゴールと11のアクション」に整理した事務局案については、</p> <p>「7つのゴール・11のアクションそのものは理解できるが、暮らしとまちのビジョンや都市構造とどう関係するかが見えない。ゴールとアクションを先に示し、暮らしとまちのビジョンや施策の内容を後に示した方がわかりやすいのではないか。」</p> <p>「7つのゴール・11のアクションについて、ゴールとアクションという言い方はわかりにくい。」</p> <p>などのご意見をいただきました。</p>
第7回	2021年 3月26日(金)	<p>マスタープランの全体構成案及び町田市の都市づくりをけん引するプロジェクトを中心に議論いただきました。</p> <p>マスタープランの全体構成案について、</p> <p>「ビジョンを前面に出していく趣旨はいいが、そのビジョンを実現する中で、現状とのギャップである課題が解決されるか整理出来る」と良い。」</p> <p>「ビジョン編のまちの“かたちとつくり”の名称について、“つくり”は納得するが、“かたち”から暮らしの図であることが連想出来る」と良い。」</p> <p>「都市計画編の土地利用や都市施設の方針は、町田市の将来人口・計画人口とどう整合しているか。都市・住宅のフィジカルな密度と人口密度の関係をうまく見せられると良い」</p> <p>などのご意見を頂きました。</p> <p>町田市の都市づくりをけん引する3つのプロジェクトについては</p> <p>「プロジェクトというよりは、ここで書かれているのはビジョンを具体化したものである。プロジェクトは事業というイメージが強いため、リーディングエリアの具体ビジョンのようなニュアンスが出ると良い。」</p> <p>「例えば、アクティブタウン化プロジェクトのように、目標像をイメージ出来るプロジェクト名にすることで実現したいことが明確になると思う。」</p> <p>などに加え、町田駅周辺、木曽山崎、忠生・北部周辺の各プロジェクトの具体的な取組み内容についても、ご意見をいただきました。</p>
第8回	2021年 5月26日(水)	<p>マスタープランの方針編を中心にご議論いただきました。</p> <p>都市計画パートについては、「(従来の土地利用の類型に)複合系を位置付けることには賛成する。複合系をどう上手に使っていくかが今後大事になる」などのご意見を頂きました。</p> <p>交通パートについては、「“小さなゆったりした交通”や“大きな速い交通”は良いキーワードだと思うので、都市計画パートの方にも入れて上手く整合させたい」などのご意見を頂きました。</p>

		<p>住まいパートについては、「商業地の住宅について、e コマースが増えて商業用途が少なくなっていく、住宅にシフトしていく。その時の住環境は大事」や「団地再生の課題として一団地の住宅施設は大きい。何かしらの記載があると良い」などのご意見を頂きました。</p> <p>みどりパートについては、「斜面緑地の話を防災や住環境の観点から記載すべき」や「グリーンインフラと言ったときに、雨水マネジメント機能を持つインフラを入れるという検討はなされているのか」などのご意見を頂きました。</p> <p>分野横断的なリーディングプロジェクトについては、「プロジェクトを推進していくための取組みが既にあるのであれば、推進方法や組織形成について具体的なプロセスまで含めて表現すべき」などのご意見をいただきました。</p> <p>また、報告事項として都市づくりのマスタープランと協働・連携の関係にある、「町田市住みよい街づくり条例」改正に関する審査会答申について事務局より報告いたしました。</p>
<p>第9回</p>	<p>2021年 7月21日(水)</p>	<p>これまでの議論を振り返り、マスタープラン全体を横断的な視点から再確認し、不足する点などを補って最終とりまとめを行いました。</p> <p>ビジョン編の将来のまちの“かたち”と“つくり”について、“かたち”という名称はどうしてもフィジカルなものを思い浮かべてしまう。例えばまちの“もよう”が良いのではないかといったご意見をいただきました。</p> <p>方針編（都市計画）の中で、ラストワンマイルの物流がニーズとして高まっている中で、あまり触れられていないといったご意見をいただきました。</p> <p>方針編（交通）では、74頁の「環境配慮」などの部分の記述が少し薄い。後ろの方にはキーワードが出ているので、もう少し強調しても良いといったご意見をいただきました。</p> <p>方針編（住まい）では、90頁の施策Ⅰの方向性②主な取組ⅰに使われている「防火性」は「耐火性」としたほうが良いといったご意見をいただきました。</p> <p>方針編（みどり）では、みどりを残して維持していくとなると、管理コストを誰が負担するかということになるが、行政や地権者が負担するのだと続かないといったご意見をいただきました。</p> <p>全体を通して、マスタープランをもとにどう具体化し、実効性のある施策に結びつけていくかということが肝要。街づくり条例と連動してコンテンツ編が増えていくことに期待しているといったご意見をいただきました。</p>